第31回関東地区卒業生の集い(2019) 報告

～ つなげる　つながる　卒業生の絆と外大文化 ～

第31回集いテーマ「これまでの30年、これからの30年」

2019年6月22日(土) 交詢社倶楽部

12:00-14:00 懇親交流会　～校友と愉楽のひと時を～

平成から令和へと元号が変わりました。新元号を祝し、新たな思いで、31 回目の集いを開催することができました。今年の集いのテーマは「校友会東京支部 ～これまでの30年、これからの30年～」。新しい東京支部づくりに向けて心踊る第一歩となる大変意義深い集いとなりました。

島谷直見校友会会長、松田武学長のメッセージに続き、香山学氏の乾杯の発声により集いはスタート。校友の皆さんの日頃の活動報告や自己PRも含め、たくさんのお話をいただくこともできました。恒例のもらって嬉しい景品たっぷりの抽選会を今年も開催できました。

東京支部　～これまでの30年、これからの30年～

東京支部の創設は1988年に遡ります。関東地区在住の卒業生は5000人程です。東京はもとより日本の政治・経済の中心で、150を超える駐日大使館がすべて東京にあることを鑑みても、東京支部が果たすべき役割そして存在意義は大きいと考えます。東京支部は「つなげる　つながる　卒業生の絆と外大文化」をビジョンとして掲げ、2011年以降実践したきたひとつが、駐日大使館や海外政府観光局、海外航空会社と大学とを結ぶ橋渡しとしての活動です。まさに、「つなげる　つながる」の実践です。

2011年12月12日～12月16日、「国際教養学科、世界とつなぐ　―ポーランドウィーク」が大学と海外政府を結ぶ東京支部の活動のスタートとなりました。それ以降、この関東地区卒業生の集いには、ポーランド大使館、グアテマラ大使館、トルコ大使館、メキシコ大使館、ベトナム大使館など、そのときどきの大使をはじめ一等書記官、商務参事官らのご臨席をいただき大学・校友会・卒業生との活発な交流を持っていただいております。

今回の集いには、駐日ポーランド共和国大使館のマウゴジャータ・シュミットさんに出席をいただきました。シュミットさんは2年前にワルシャワ大学日本語学科と外大をつない

でくださいました。今年5月にはポーランドのウッチ大学副学長らが外大を訪問、同行されたシュミットさんは「外大にポーランド語学科が新設されることが遠い夢ではないことを願っています！」と集いの中でも話されていました。

校友と知見を共有し互いの人生を応援し母校に貢献する東京支部

2020年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されるビッグイヤーです。東京支部は常に歩みを止めることなく、校友会と大学と協調・連携しながら東京支部らしさを今後とも引き続き発揮してまいります。Global Study Workshop (GSW) の活動の一環として「京都アカデミアフォーラム」in 丸の内を活用したセミナー&ネットワーキング活動にも取り組んでいきます。

「校友と知見を共有し互いの人生を応援し母校に貢献する東京支部」であり続けたいと考えます。東京支部のこれからの30年に向けて、皆様、引き続きのご理解とお力添えをお願い申し上げます。

